

西岩倉金藏寺は灰方の南、長峯坂本の西山上にあり。〔桓武帝の御宇平安城遷都の時、王城の四方へ経王を取られ、

此所も其一所にして岩倉と号す。石蔵此山上にあり〕天台宗にして、本尊は十一面觀世音なり。〔向日明神の御作〕不

動堂には五大尊を安置し、念仏堂には阿弥陀仏を安置す。瀧は三段に流れて一の瀧二の瀧三の瀧といふ。〔向日明神化

現し給ふ所なりとぞ〕開基は隆豊禪師〔此人は薩州河辺の人、父は薩摩大守重命なり。十三歳にして出家し、元興寺

の道昭に随ふて禅法を聞、龍門寺の義淵に就て維摩会を曉し、又呉国の智識に随ひて三論の微旨を受け。あるとき靈夢

によつて当山に登るに、弓箭を帯する老翁忽然として来る。隆豊これをあやしみ、翁はいづくの人ぞと問ふ。翁こたへ

て、われむかしより此山にすんで汝を待事久し。時に金光の鹿とびきたりければ、翁箭を放つに、その矢かたはらにあ

る楠にたつ、則その矢をぬく、跡より光明を発す。翁これをさして靈木なり千手の像を造るべしといふ。隆豊その言に

応じて尊像を彫刻せり。今の本尊これなり。翁又曰、此地を師に授くべし、仏閣を建て、此像を安置したまへ、われは

守護神となり、向日山に止るべしといひ終つて去る。すなはちその神勅にまかせて伽藍をいとなみ給ひしなり〕